

2022年1月31日

乳がん検診、乳腺外来 受診者 各位

公益財団法人東京都予防医学協会
がん検診精度管理中央委員会

新型コロナワクチン接種に伴う反応性リンパ節腫大について

新型コロナワクチン接種後の副反応として、倦怠感や頭痛、発熱というような副反応がおきることはメディアでも毎日のように報道されており、ご存じの方も多いと思います。

こうした症状に加えて、新型コロナワクチン接種後、特に2回目以降の接種後に、接種した側の腋窩リンパ節が腫れることが報告されています。これは抗体を作成するために免疫機能が働いている兆候なので病気ではなく、心配はいりません。

ただし、乳がん検診や乳がん術後の外来で、マンモグラフィや超音波などを受ける場合に判定や診断に影響を及ぼす恐れがありますので、お知らせいたします。

現在接種で用いられているファイザー社やモデルナ社の新型コロナワクチンは、上腕での筋肉接種で実施されているため、接種した側のわきの下、頸部（鎖骨の上）リンパ節が腫れることがあります。腫脹の程度はほかの副反応と同様に、人によって年齢によって違いがありそうですが、特に50歳以下の女性ではかなりの頻度で起きるようです。

こうしたことからアメリカでは「可能であれば、1回目のワクチン接種の前か、2回目のワクチン接種から6週間経過してから、乳がん検診を受ける」ように勧められています。

また日本では、日本乳癌検診学会から「乳がん検診にあたっての新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応の手引き」 <http://www.jabcs.jp/images/covid-guide202106.pdf> が示され、「ワクチン接種前に施行するか、2回目ワクチン接種後少なくとも6～10週間の間隔をおいてから施行すること」が推奨されています。

なお、その時期は絶対に検診を受けてはいけないということではありません。その時期でないと受けられないようなご事情がある場合には、受付に「〇〇日前にコロナワクチンを接種した」と最終ワクチンの接種日をお伝えください。ワクチン接種後であることを考慮して判断させていただきます。

不明点等がございましたら担当者にお尋ねください。

〈本件に関するお問い合わせ先〉
看護部 電話 03-3269-7011